

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年二月度 入選句（投稿総数千二百二十一句・一般投句数五百九十七句）

特選

薄氷や言ひさしのこと呑み下す

養老郡養老町 田中 紫香

「薄氷」（うすらい）は、春先の薄々と張る氷であるが、少し溶けだして、水になっていることもある。氷りでもない、水でもないといった状態が、「薄氷や」で強調されている。「言ひさしのこと呑み下す」は、少し話し始めた言葉を、何かの都合で言うのをこらえ、その言葉を呑み込んで言葉にしなかった。という情景であろう。「何かの都合」が「薄氷」のハッキリしない状態と重なる部分であろう。「上五」の「薄氷や」との「取り合わせ」の効果が大きい句である。

下萌やびよんぴよん跳ねる赤い靴

大垣市 早崎 美弥子

「下萌」は、冬枯の中に春が立ち、いつの間にか草の芽が萌えつつある状態を言う。春になり、少女も外で遊ぶのを待ち望んでいたことであろう。「びよんぴよん跳ねる」から、春が来た感動がよく伝わってくる。しかも赤い靴が、色彩感を豊かにしている。下萌の緑と対照的な靴の赤が、情景の中に描き出されてくる。

シルバーに奨める派手な冬帽子

大垣市 浅野 亨

「冬帽子」が季語。お互いに年をとって、地味なものを身につけるようになってしまった。「シルバー」として、庭の剪定にでも来ている人に、「派手な帽子」を奨める情景が浮かんできく。さて、自分は派手目の帽子を被っているのだろうか。なぜ、派手目な帽子を奨めるのだろうか。いろいろ想像できる愉快な句である。

秀逸

雪吊りの描く円錐縄模様

安八郡神戸町 早津 郁男

臥す母に雪見障子を明けにけり

大垣市 大西 誠一

投げ銭の傷跡寒し太柱

大垣市 田中 雅子

春立つや倒立少しできた一瞬

大垣市 谷 彩虹

鈍色の空へ千てふ芽吹きかな

岐阜市 堀江 美州

春一番吹かれて帽子飛びさうな

大垣市 坪井 克枝

口髭を濡らして啜る七日粥

不破郡垂井町 富田 実郎

鰯酒と決めて暖簾を割って入る

不破郡垂井町 西田 厚堂

産土へ足の向きたる恵方かな

不破郡垂井町 臼井 梅乃

重なりぬ絵馬の願ひや梅真白

大垣市 新町 恵子

入選

經過良き退院迎えし福寿草
新成人和服のすその乱れゐて
寒げいこ真一文字や孫の口
はずんでは群れて離れて寒雀
産土神の庭馥郁と寒紅梅
春宵や五時の鐘聴く輪中堤
立春や水の昂ぶる洗ひ堰
はだれ野にポツリ苔生す道祖神
寒漉の水を重ねて和紙の里
息かけてぬぐふ遺影や夜寒かな

大垣市	川瀬 芙沙子
大垣市	浅野 亨
大垣市	平野 きぬよ
揖斐郡揖斐川町	栗野 みねお
大垣市	伊藤 英司
大垣市	木村 一句
大垣市	森川 きよ子
大垣市	伊藤 有紀
不破郡垂井町	大羽 志津子
不破郡垂井町	竹嶋 富美子

入選

氷割る子供の列の乱れかな
このマフラーかけてあげたしロダン像
春近し夢また夢の退院日
春来ても又春来ても春恋し
冬の虫日課となりし看取り妻
里を恋ふ鳥の一声寒明ける
喪心を曳きずり春となりにけり
群青の空やはらかく寒明くる
草も木も雨に息づき春近し
夫婦して数かぞえあう蜺汁

海津市	草野 博喜
兵庫県美方郡	井上 みちよ
各務原市	つどいさんじん
安八郡神戸町	五月 南風
養老郡養老町	田中 秀子
大垣市	片山 洋紅
福井県福井市	三ツ山 しげ子
福井県福井市	三ツ山 ひろし
大垣市	森 芳昭
兵庫県丹波市	川浦 時具

選者吟

啄んで啄んで春探しけり

永山